

とちぎの車事情

～高い自動車依存～

本県の1世帯当たりの自家用車の台数は、平成17年12月末現在全国8位であり、自家用車が多い県といえます。また、通勤・通学で自動車を利用している人の割合は68.8%で全国8位となっています。これほど自動車の普及率が高いのはなぜか理由を探ってみます。

まず、公共交通機関ですが、県都と県内主要都市及び県内各地と東京方面を結ぶ鉄道で見ると、昭和55年当時と比べてみても、列車の表定速度や本数は一部を除き大きな変化はないが、利用者数は減少傾向にあります。バスについては路線数や便数が減少しており、利用者数は減少しています。

また、年間商品販売額を商業集積地区の内訳で見ると住宅背景型の構成比割合が全国4位であるのに対して、駅周辺型や市街地型の計が全国27位となっています。人口集中地区人口密度は全国28位と全国平均を下回っているという点からも、駅周辺に比べ郊外の人口が多くなっています。郊外の大型商業施設がにぎわっていることから移動手段として自家用車が欠かせないと思われれます。

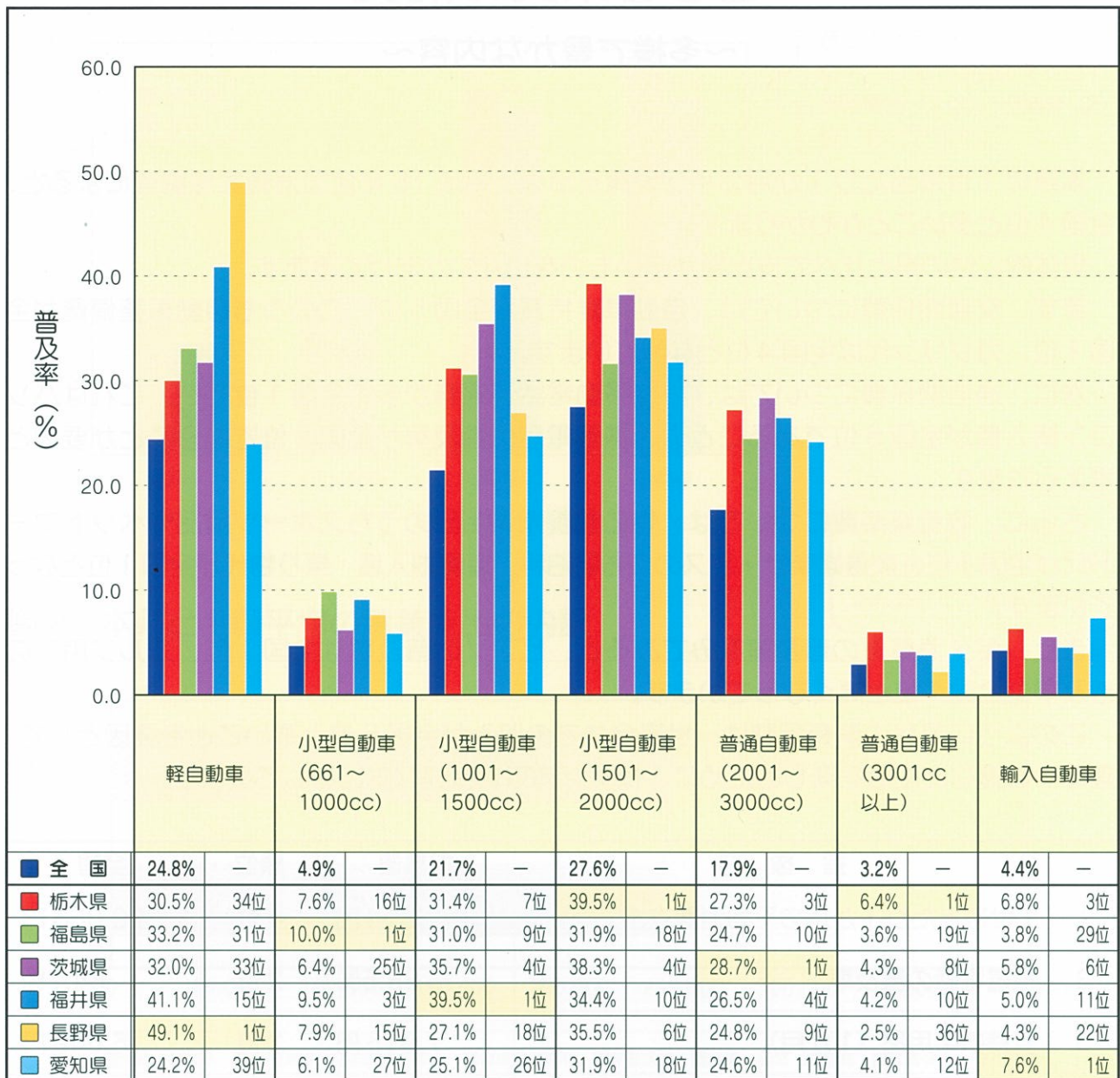
さらに、道路状況をみると道路整備率が全国15位、道路改良率が全国14位と、北関東自動車道や宇都宮環状道路を始めとした体系的な道路網の整備が進んでいることがわかります。これらの状況が影響して車に依存した社会を形成したと思われれます。

今後は、高齢者や障害者などの移動手段の確保や環境負荷の軽減を図る観点から、道路整備とともに、人と環境にやさしい公共交通の整備が求められています。

指 標 名		指標値	順位	全国
1	1世帯当たりの自家用車保有台数 (H17)	2.25台	8位	1.54台
2	通勤・通学で自動車を利用している人の割合 (H12)	68.8%	8位	45.7%
3	都道府県別道路現況<一般道路>の整備率 (H17)	62.4%	15位	55.2%
4	都道府県別道路現況<一般道路>の改良率 (H17)	66.1%	14位	57.9%
5	住宅背景型の構成比割合 (H16)	11.6	4位	8.6
6	人口集中地区人口密度 (H17)	4,718人	28位	6,714人

※ 1 交通年鑑 (栃木県)、2・6 国勢調査 (総務省統計局)、3・4 道路統計年報 (国土交通省)、
5 商業統計表 - 立地環境特性別統計編 (小売業) (経済産業省)

図1 車種別普及率



※平成16年全国消費実態調査〔総世帯〕（総務省統計局）

トピックス

—モータースポーツの発信源—

1997年8月、栃木県芳賀郡茂木町にオーバルコースとロードコースの2つのコース（周回路）を併設する、世界でもまれなサーキット施設「ツインリンクもてぎ」がオープンしました。ここではインディ・レーシング・リーグ（IRL）を始め、ロードレース世界選手権、トライアル世界選手権、フォーミュラ・ニッポン、もてぎオープン7時間耐久ロードレースなどのモータースポーツが開催され、栃木の車文化の発信源になっています。